

益田市におけるアライグマの 生息数の低減に向けて

島根県中山間地域研究センター
鳥獣対策科 小宮将大



アライグマについて



尾の縞模様が
特徴

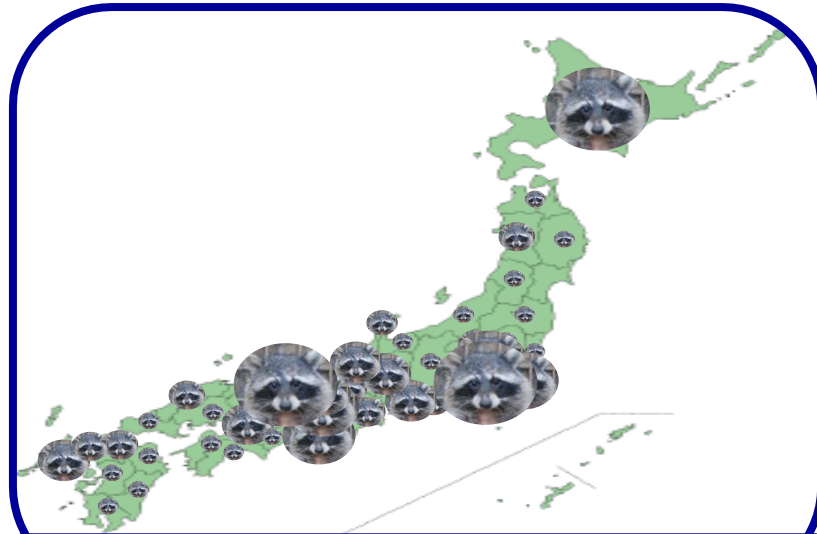
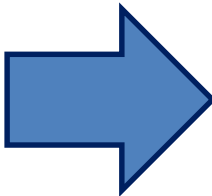
アライグマ (*Procyon lotor*)
北アメリカ原産 **特定外来生物**



アライグマによる深刻な問題...



ペットとして輸入



飼育放棄によって各地で野生化



スイカ被害



コイの被害



寺社の被害

各地で農作物被害や民家侵入被害などが発生！



アライグマによる深刻な問題...

☑感染症リスク

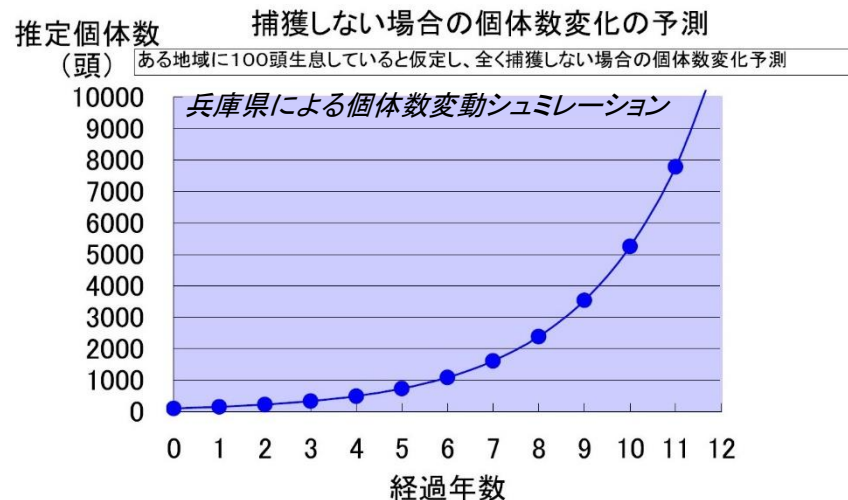
狂犬病, アライグマ回虫, レプトスピラなど

☑在来生態系への影響

モリアオガエルへの食害, イシガメへの食害など

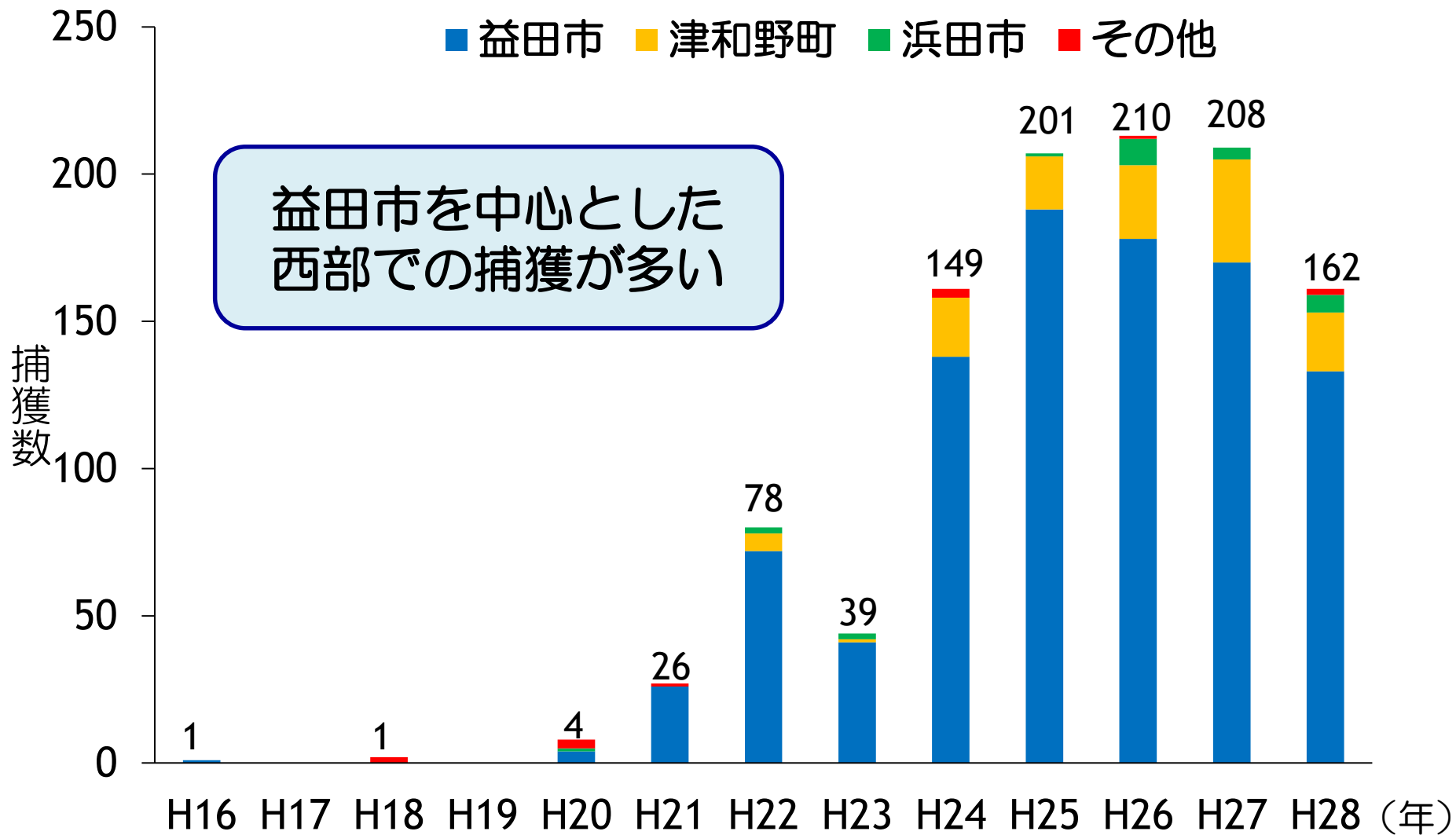
☑高い繁殖・増加率

初期に100頭生息していると
10年後5千頭, 12年後には1万頭
を超える(捕獲をしない場合)。





島根県のアライグマの状況（捕獲数の推移）





島根県のアライグマの状況（被害）



ブドウの食害



家畜飼料の食害



民家への侵入



寺社仏閣への被害



対策上の課題...錯誤捕獲

- 錯誤捕獲は**本命（アライグマ）**の約10倍（H24年、約1000頭）
- 「**錯誤**」⇔「**放獣**」で**モチベーションは低下**（ネコばかり…）



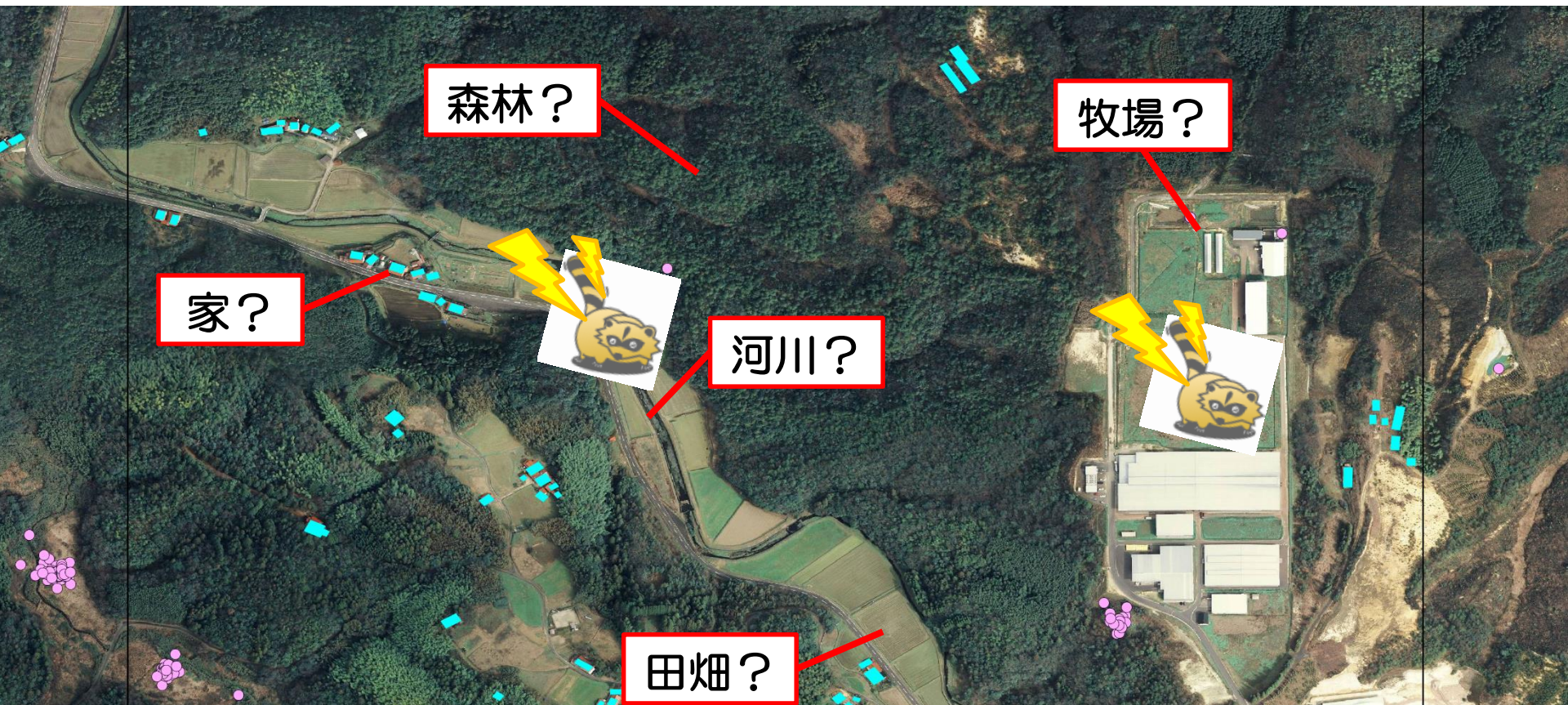
課題① 錯誤捕獲の防止





対策上の課題...捕獲場所

○どこで捕獲すれば、より効率的にアライグマを捕獲できるか？



**課題② 効率的にアライグマを捕獲できる場所
(こういった環境を利用しているのか)**



効率的な捕獲技術の開発に向けて

① 錯誤捕獲防止のための新型捕獲わなの開発

② 効率的な捕獲場所の解明

(GPS電波発信器による行動追跡調査)

③ 捕獲効果の検証 (モニタリング)

について、明らかにすることを目的とした。



1) 錯誤捕獲防止のための新型捕獲わなの開発

サージ ミヤワキ株式会社との共同研究をスタート
→新規構造の罠を試作





1) 錯誤捕獲防止のための新型捕獲わなの開発

現在、益田市内で捕獲試験を実施中。



アライグマ1頭を捕獲。 **錯誤捕獲はゼロ。**



研究の目的

効率的な捕獲技術の開発に向けて

- ① 錯誤捕獲防止のための新型捕獲わなの開発
- ② 効率的な捕獲場所の推定
(GPS電波発信器による行動追跡調査)
- ③ 捕獲効果の検証 (モニタリング)

について、明らかにすることを目的とした。



2) 効率的な捕獲場所の推定

GPS発信器を装着して、追跡調査を行った。

調査個体：5頭（♂2頭, ♀3頭）

調査場所：益田市

個体No.	期間
♂①	4/7 - 5/15(40日)
♂②	5/11- 10/11(153日)
♀①	2/2 - 2/20(19日)
♀②	3/30- 5/21(52日)
♀③	6/6 - 8/6 (61日)

測位間隔：48point/day

解析方法：QGIS,sagaGIS,R



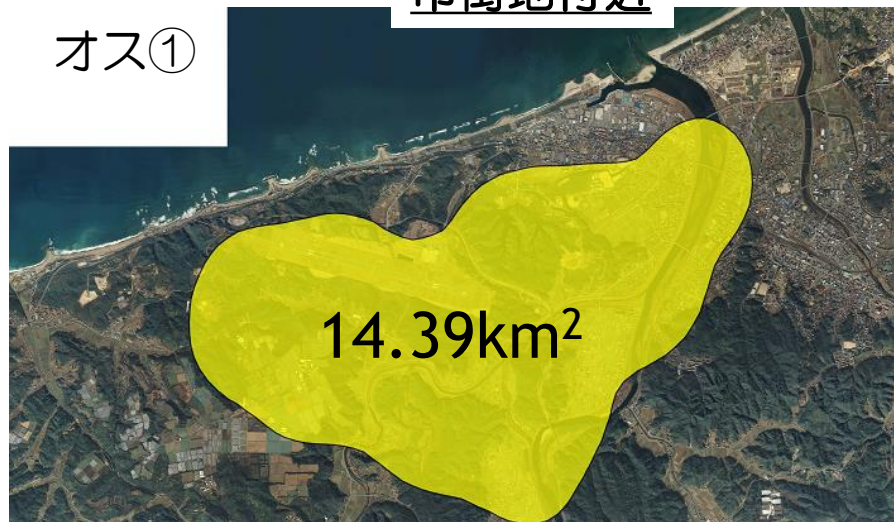
発信器を装着した個体



2) 効率的な捕獲技術の開発 (推定した行動圏)

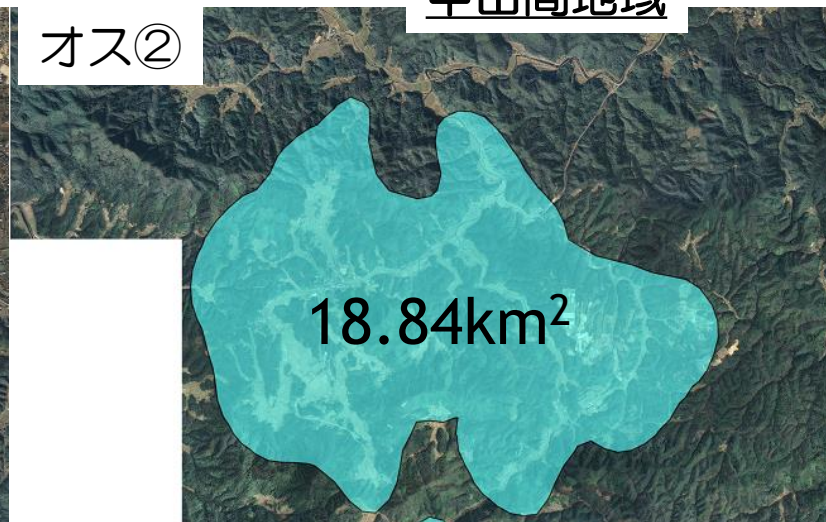
市街地付近

オス①



中山間地域

オス②



オスは、メスより広い行動圏を持つ

メ

3.54km²1.63km²1.93km²

0 0.5 1 km

0 0.5 1 km

0 0.5 1 km



どんな環境を利用していたか (Manryの資源選択指数)

調査地	ID	森林	水域	水田	畑・ 果樹園	家屋 (空き家)
-----	----	----	----	----	-----------	-------------

オス①



結果より

○河川や水路

○空き家 (空き家の多い地域)

の周辺で効率的に捕獲できる可能性が示唆された。

● 休息期(昼間)は、針葉樹・広葉樹・空き家

● 活動期(夜間)は、水域・水田

を選択的に利用



研究の目的

効率的な捕獲技術の開発に向けて

- ① 錯誤捕獲防止のための新型捕獲わなの開発
- ② 効率的な捕獲場所の推定
(GPS電波発信器による行動追跡調査)
- ③ 捕獲効果の検証 (モニタリング)

について、明らかにすることを目的とした。



3) 捕獲個体のモニタリング

捕獲個体から

- 年齢構成と性比
- 妊娠率と産仔数
- 捕獲効率(CPUE)



生息数の増減状況

- 捕獲位置の分布

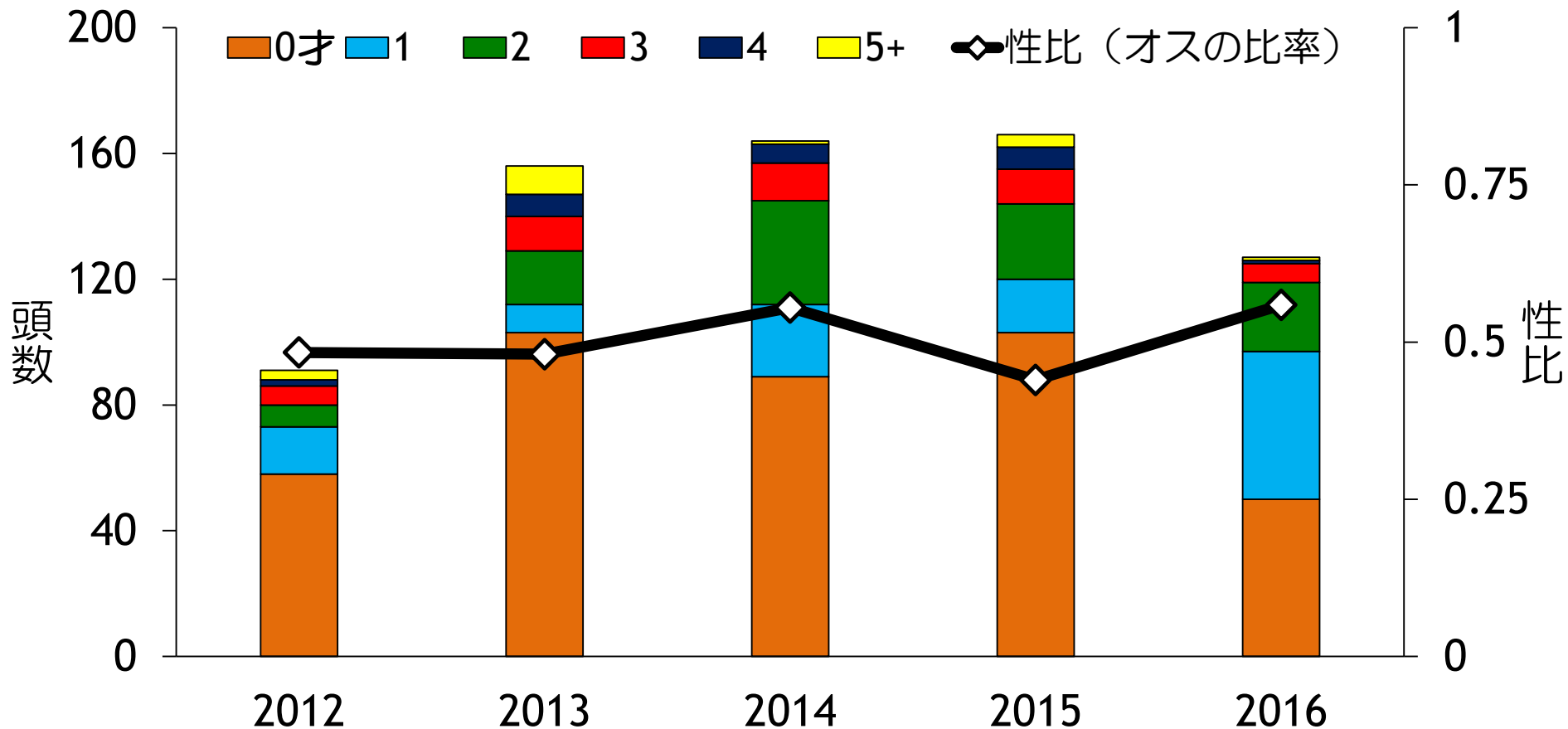


生息分布域の状況

について明らかにして、捕獲効果の検証を行った。



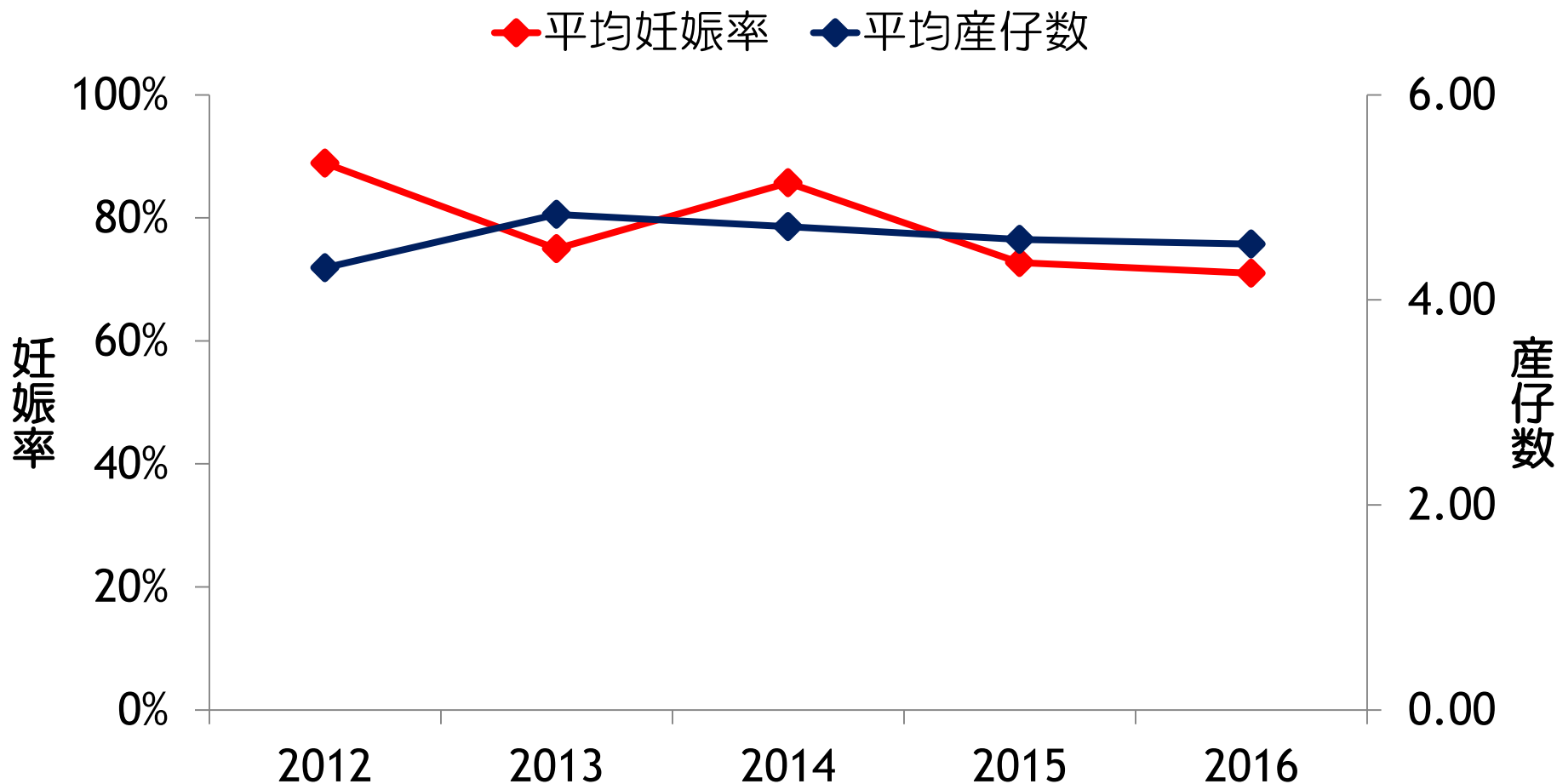
3) 捕獲個体のモニタリング（齢構成と性比）



齢構成は、0歳個体が50%程度で推移。
性比は、0.5程度で推移。



3) 捕獲個体のモニタリング (妊娠率と産仔数)



成獣メスの妊娠率は、平均80%で推移
産仔数は、4.5頭程度で推移



3) 捕獲個体のモニタリング (捕獲効率)



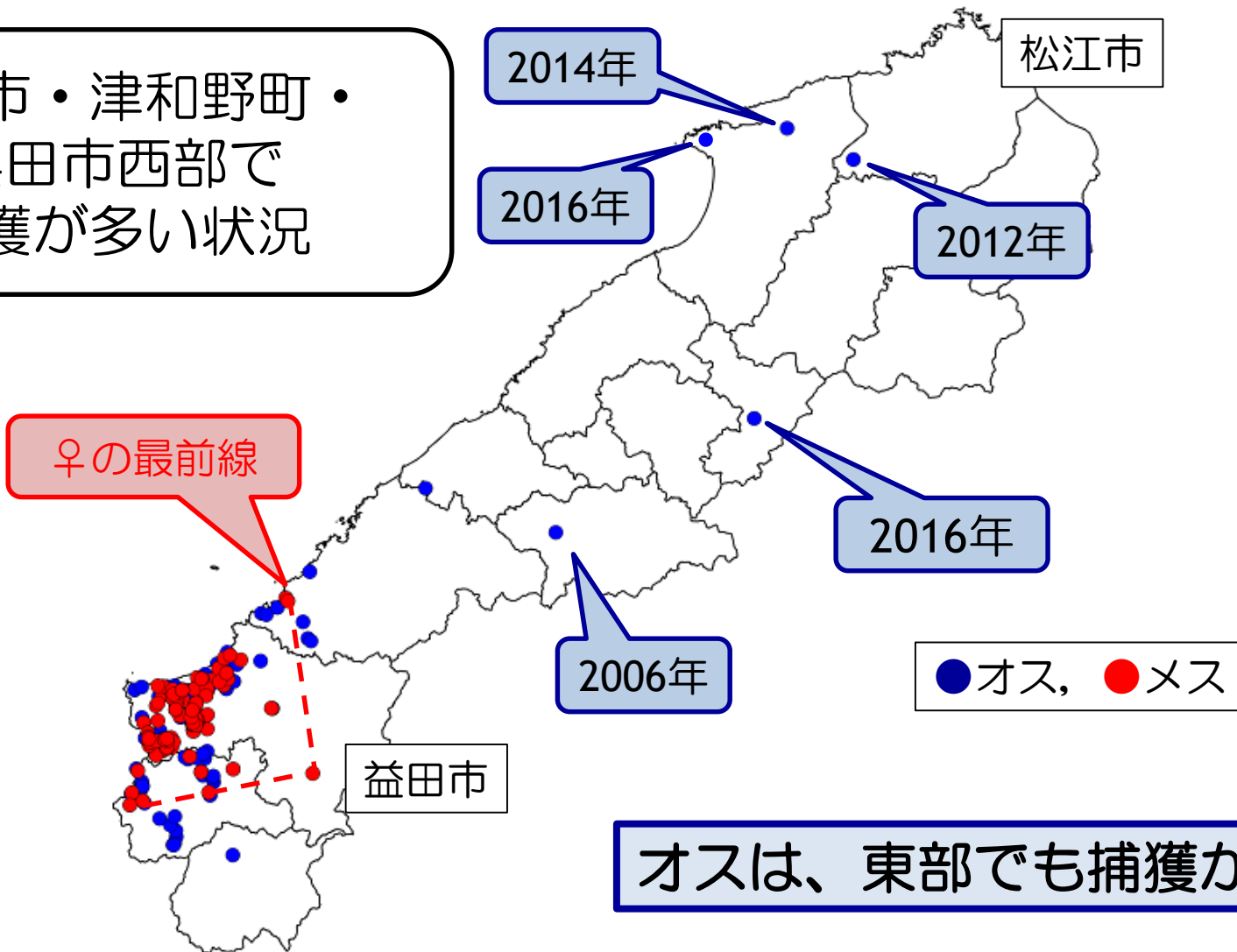
CPUE (100TN当たりの捕獲数)

CPUE(捕獲効率)...密度指標の目安となる値
(1日100台の罠を設置して捕獲できる頭数)



3) 捕獲個体のモニタリング (分布状況)

益田市・津和野町・
浜田市西部で
捕獲が多い状況



オスは、東部でも捕獲がある



○個体群の状況

齢構成と妊娠率

- 齢構成や性比や妊娠率、産仔数は、一定で推移。
CPUEは中密度地域で推移。

捕獲位置

- メスは、浜田市三隅町まで定着
- オスは、東部方面に単発的に分散

捕獲によって、個体群の増加は防いでいる。
しかし、減少（低密度化）には至っていない。

効率的な捕獲技術の開発に向けて

① 錯誤捕獲防止のための新型捕獲わなの開発

⇒現地試験を継続して、来年度以降の完成を目指す。

② 効率的な捕獲場所の推定

⇒効率的な捕獲場所は、水辺や空き家であった。

③ 捕獲効果の検証（モニタリング）

⇒捕獲によって、増加は防いでいるが、減少には転じていない。

また、東部方面へ拡大する恐れがある。



今後の対策について

▼定着地域では、
○被害対策の捕獲
○生息数の低減に向けた
水辺や空き家などでの捕獲
が必要

▼東部では、
○監視体制の強化
○情報の積極的収集

▼分布拡大を阻止するため
○♀の分布最前線で積極的
な捕獲が必要

捕獲効果の検証や分布域の調査は、継続して実施。